



インターンシップ等実務者研修会
〔東北地区〕

学生と住民との協働による道づくり & 橋守プロジェクト

～インターンシップによる大学1年生のトップアップ教育～

平成27年8月4日

日本大学工学部
岩城 一郎



日本大学および工学部の紹介

- 日本大学: 14学部(+1教育部)で構成され, 約70,000人の学生が在学. 「自主創造」が教育理念
- 日本大学工学部: 6学科で構成され, 約5,000人の学生が在学. 日大では最北のキャンパス. 「ロハス(LOHAS)の工学」が研究教育方針



N. ロハスの工学とは

ロハス

(Lifestyles of Health and Sustainability: **健康**で**持続可能な生活スタイル**)
を実現するための工学であり、震災、原発災害と風評被害から、“**ふくしま**”の**自立した復興**を実現するために必要となる工学である。



3

N. 工学部の研究・教育方針

国が提唱する「**ライフイノベーション**」と「**グリーンイノベーション**」を包含し連繋する「**ロハスイノベーション**」を目指すものである。



Four boxes showcasing research centers and facilities:

- 次世代工学技術研究センター (NEWCAT)**: Image of a modern white building.
- ロハスの家**: Image of a house with solar panels on the roof.
- ふるさと創生支援センター**: Image of a Bio Gas Station (バイオガスステーション) and a person working at a computer.
- 環境保全・共生共同研究センター**: Image of a modern multi-story building.

4

N. 取組の概要(全体構想)

ロハス(Health & Sustainability)のインフラ
とこれによる地域づくりの実現



- 学生と住民との協働による道づくり
- 学生と住民との協働による橋守
- 橋の名付け親プロジェクト
- インフラに対する無関心を関心、愛着へ

N. 学生と住民との協働による道づくり





学生と住民との協働による橋守



橋の名付け親プロジェクト



- 管理橋数の約半分 (28橋) が名無し橋
- ↓
- 2橋を選定し, 2013年5月に学区内の小学校に橋の名前を公募
- ↓
- 2013年6月にイベント開催(銘板の設置)



N. 取組の経緯(全体像)

社会的背景

- 社会インフラ(道路, 橋)の老朽化
- 地域の過疎化・高齢化, 衰退

教育上の背景

- ボトムアップ教育への偏重(優しいことを手取り足取り)
- 積み上げ教育のマンネリ化

基礎科目→専門科目→実験・実習→卒業研究

- やる気トップの学生のやる気をどこに向けるか?

現場の最前線→課題→解決策→専門知識の重要性→日常のモチベーション



- 工学部の有志教員6名で課外講座を開講
- 学科・学年不問の講座:履修希望学生は担当教員からテーマを与えられ, プロジェクトを推進し, 成果を発表→最優秀賞は社会人基礎力育成GP予選会に出場

9

N. 自治体で管理している橋の現状

- 膨大な橋梁数
- 技術力・財政力不足
- 橋梁のデータ不明

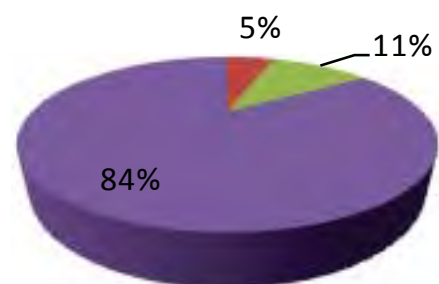


- 膨大な患者数
- 医師・医療費不足
- カルテ不明

高度な医療を受けられない自治体の橋梁にとって, 予防医療こそが最善策

■ 国道 ■ 都道府県道 ■ 市町村道

福島県の道路延長



N. 住民との協働による橋の維持管理

地域住民の輪番制による

- 排水溝の清掃
- 堆積土砂の撤去
- 防護柵の塗装
- 美化(植栽)

→橋の歯磨きプロジェクト

その他にも

- 橋の異常を感じた際の役場への通報システム(橋の119番)
- 橋の名付け親プロジェクト



無関心から関心, そして愛着へ!!

N. 取組の流れ

福島県内市町村の社会構造とインフラの現状
高齢化・過疎化, インフラの老朽化, 技術力・財政力不足

- 国・県から市町村へ→地域の好例を各地へ
- 市民の望むインフラを市民と共に造り, 守る!
- 地域社会の活力向上, 復興への足掛り

“平田村発”住民との協働による道造り

- 6月:道づくり事業に参加
- 夏休み:道普請に関する調査・研究
- 9月:道づくり事業第2弾に参加
- 9月:学内発表会→最優秀賞
- 11月:社会人基礎力GP予選会→優秀賞
- 冬休み:“橋の名付け親プロジェクト”企画書の作成→提出→受理
- 3月:本大会に出場→準大賞受賞



N. 取組上の問題

本取組はどのような壁に突き当たり、どのようにしてそれを乗り越え今日に至っているのか？

- 各方面(官学産民)との調整
 - 役場担当者への説明→村長への説明
 - 住民への説明
 - 地元企業への説明
- 学生(1年生)の教育
 - 課外授業としての活動(時間的制約)
 - 企画書の作成
 - プレゼン指導(パワポ&発表)

13

N. 今後の課題

- 持続可能性
 - ✓ 次の担い手
 - ✓ 各々の負担軽減
- 水平展開
 - ✓ 平田村, 南会津町から県内各地, そして県外へ
 - ✓ 情報発信(マスコミ, SNSの活用)

解決策

- 卒業研究生, 修士研究生により, 取組を研究として深化
- 高校生(工業高校のインターンシップ)との連携
- 小中学校への協力依頼

